夕刊
磐城新聞
二十二月二十一日發行
定價 一ケ月金六拾五錢（郵税拾五錢）
廣告料金 一段十行 金壹圓 同 二段 金六拾錢 同 五段 金壹圓 同 三段 金九拾錢 同 公定廣告 一字 拾錢 行 金壹圓
發行所 磐城新聞社 福島縣磐城郡平町 山町十六番地 電話 平 一〇番 常磐線 五六番
（日曜祭日翌日休刊）

鑛泉吟行

奥野細脛

（上）

初冬といふに朗かな春のやうな日がつゞくのに拘はらず、内憂外患交々身邊に迫つて昨今の我輩少しく憂鬱である、柄にもなく神經衰弱てふ文明病にかゝつたらしい、非文明な山奥でこの不眠症だけでも癒したいと思つてゐたがたま〳〵廣野に急用が出來たので颷々子を誘つて折木の鑛泉湯治を決行した、問題が遊覽とあつて汽車まで遊覽車に見れて困つた、午後の陽に映ねた沿道の刈田も春をおもはせる

ひたすべる小春日和の
刈田中

行程僅か七八里の鐵路もトンネル、またトンネルがなか〳〵に旅情をそゝりブリッチのない、廣野の小驛も珍らしく見えた

冬されや汽車降りて踏
む砂利の音

驛前のS家に半時ばかり待ち合せたる程に釣瓶落しの秋の日が早やさびしい野山に闇の帷幕を投げかけてゐる、車庫前に案内されて自動車の人となつたが、これがまた大變、車内の吾等は轉々手毬の如く、自動車は唸り通し戰車とでも間違へたか前方から來た二頭の駄馬が右と左の刈田に五六存ずるなタイル張りの大浴場は老若男女入り亂れての混浴、尤もいづれを見ても蕊くれかならず、これでは遠來の粂仙人も決して通を失ふ心配がなく野暮な混浴の御法度など永久御廢止然るべう

聞もすつとんだなど痛快な風景であつた。丹田に全力を入れてやうやくころげ込んだ旅館を若松屋と云ふ自動車に驚ろく駄馬や
落葉路

短日の溫泉宿は早も灯りけり

くつろぐ間もなく宿の女はしきりに入浴をすゝめる『今荒い揉み療治を受けて來たばかりだから待つて呉れ』『でも夜は村の衆が貰ひ湯に來ますから』成程綺麗

糸

宮崎草子

ひたすらに細く、長く一本の
大空に遊絲ひ消ゆる蜘蛛
の緯の
蛛蜘の緯のごと
のぞみは細かれど
いましの胸を結びけるも
風吹かば
搖るゝ糸なり
悲しさよ
雨の降りでも涙し濡るる
この糸
この糸いと細し
月もなき
なみ星も光りそ
闇の夜よ

愛讀者懸賞抽籤

十、十一、十二月三ヶ月分の本紙購讀料領收書と引替ゑに抽籤券一枚を呈上。以上三ヶ月分の前納には新舊讀者を問はず抽籤券即時呈上

一、抽籤　明春一月四日
一、發表　同六日本紙上

賞品

テーブルゲーム　一面宛
一等特大形（一名）二等大形（二名）
三等中形（三名）

新門と女房

柳町陽二

（六）

腰にぶち込んだ道中差しも重たそうであつた
では途中氣を付けてねうまくやつて來ておくれ、――
親分がゐるからにやもう大丈夫です
――合點、姐御心配しなさんな
親分辰五郎を中に一同が外へ出ようとした時女房けうむとうなるとばたりと倒れた
見れば何事ぞ懷劍が左乳の下につつ立てられどす黑い血がドク〳〵流れ出してゐる
――あッ、いけねい
一同はびつくりして引返すと女房の介抱をしたがどうで助かる命ではない
――か、覺悟の上で御座ひます
初めて女房の眞意が讀めた一同は唯暗然と涙に暮れてゐた
――これしつかりしろよ、流石は新門の女房だ、有難いぞ、きつと、きつと御用は見事やつて見せるぞ、御用がすみや俺もおつつかゆく身体だ、冥途とやらで待つてゐろよ
辰五郎は血に染るのも忘いて、女房を抱きしめた
――御成功を及ばずながらいましめたらまたしたが
わが糸の自からの音
わが糸の自から微かに光
るを手さぐりて
手さぐりつ
いな
私言ふべからず
私、告ぐべからず
そは、音もなく果敢なく

ひらら
一片ひらら散る
朱き朱きけしにのみさゝ
やくべかれ

新刊紹介

△皇道經濟論（久原房之助著）非常時日本の一重鎖として常にその一擧手一投足が狀勢展開の原動力の觀をなす著者が、本書によつて胸奥に秘めたる獨自の根本國策を大膽に宣明したことは時宜柄極めて注目に値することである。上篇の皇道經濟論は來るべき新經濟組織の原理を述べたものであり下篇の政黨合同論は今後の政黨の歸趨を敎ゑたるもので、何れも簡明な筆調ながら、可成り突込んだ見解を端的に披瀝して居るのは流石だと思はせる（價三十錢送料四錢東京橋第一相互館千倉書房振替東京九七八）

△三方ヶ原合戰（天正元）△楠公の湊川碑成る（元祿五）△東京地方初雪前年より五日12月22日

前田醫院

院長　前田清美
植田町電話一二四

尙早（昭和五）△兵匪討伐の我軍法庫門に入る（同六）△昭和五年執行の國勢調査概要公表（同七）

社會の一分日

○
縄ぬけて落つる大根や
冬の風

雪雄

地の涯ての出來事まで
も聞き漏らすまいと末
梢神經を光らすが冬木
よ

花岡謙二

講談　幕末神風組

土生太郎作
高根秀浩畫

（83）殺陣往來（五）

此處は築地御木本の邸、神風組の本陣である。ひよつこりやつて來た上總屋藤七、首領御木本の顏が見ねぬので、其の儘出かけようとしたが、其處に浮かぬ顏の虎公や辰公の顏があつたので

『どうした？馬鹿にしよげ切つてゐるではないか』

『どうもかうも、此の間の晩の騒ぎからすつかり身体が、どても利いてやさね』

『さうだらう、あれは我々の失策からでもあつたが、緩いて、淺野等の斬り込みでな……俺もすんでの事で危ないところであつたよ幸せ、九分九厘こつちのひ斬られはしたものゝ、淺傷だつたので命だけは助かつたが、お庇で酒は呑ませたのだと思つた。その僅かな油断がいけなかつた。染香の奴、この寒空に河へ飛込んで見たが行方知れず、あの宣ねすぐ船を出させて探しめあてはなんぼかりに激しく轉がり込んで來たものがある

『何事？』

期せずして一座は總立ちとなる、轉がり込んだのは今朝ほど御木本についてお出かけた六造であつた

『水を呑ませてやれ！』

一息に水をゝみ干すと六造、タッタ今、水天宮の境内で御木本が淺野隼人と出合つた顚末を物語つた

『何！御前と淺野が、それッ』

といふと一同は早くも應援の支度、手早く身仕舞ひした二三十人の者は六造を先頭に駈け出して行く

道は今六造が駈け拔けて來た逆コースだ

疾風の如く走つて行く一團は恰も怪魔の駈け過ぎるにも以て物凄い事限りなしである

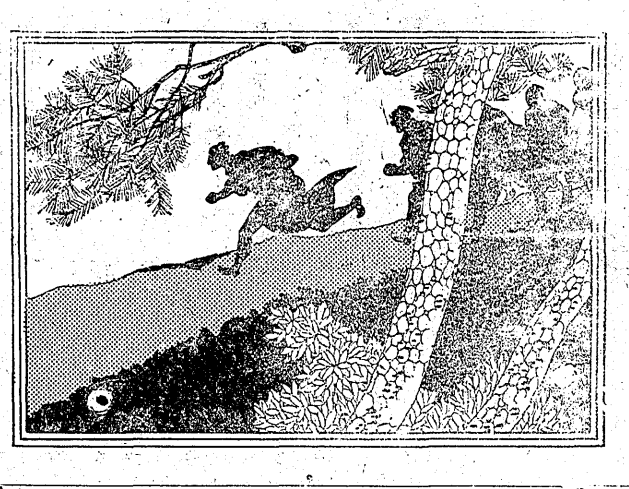
御木本を援げろ！

淺野を討て！

各人の腦裡にはかういつた字句が渦巻き返してゐる

『それで好きな酒も斷たれてゐるといふ譯だな』

『全くで……佐吉親分だけならまだよかつたのでがせうが、何しろ染香姐さんの



が云つた、實は藤七も其の事は、乾兒から薄々聞いて知つてゐたのであるが

『ほゝう！、それは又――』

如何にも初耳でもあるかのやうに相槌を打つ

『よくは知らないのですが――おゝ恰度いゝ、目擊した野村氏がゐますから、今野村氏を呼んで來ませう』

さう云つて立つと間もなく野村一衛を連れて來た

『やあ、どうですな、傷の具合は――？』

野村は藤七に笑ひかけた

『いや、どうも……しかしもう大丈夫ですよ、時に染香の……』

『その事ですが、あの晩偶然に偶然でしたが染香のだ・そして早くも魂は水天宮わきの松林へと飛んで行つてゐるかのやう

船宿でね、染香が危ふく惡
船頭に手籠めに逢はうとす
るところへ折り良く通り合
ひたものゝ、淺だと思つた。その僅かな油
斷がいけなかつた。染香の
奴、この寒空に河へ飛込ん
て見たが行方知れず、あの
ぬ船を出させて探し
分ちや奴さんも可愛想にお
陀佛に相違ありませんよ』

野村は要領よく染香取逃しの顚末を物語る、其の折であつた。表戸を打ち倒さ

後はきゝとれなく唯かすかな微笑のみがこの世の名殘りであつた

女房の死によつて辰五郎はげまされ前よりも元氣になつた、兒分達も姐御の死に酬ゆる爲めには……と非常な決心を見せ、心を惹かれながらも五萬兩秘密輸送の大仕事にとりかかつたのであつた

辰五郎らが五萬兩の大金をどうして運び出したか？詳しい事は傳はつて居ないただあれ程の官軍の警戒を無事に潛つて水戸に五萬兩の大金を送り届け、内々將軍慶喜公に拜謁して有難き御言葉を頂き天晴男を上げた事は事實である。又辰五郎の病氣もあれつきり良くなつて無事に馬道の我家に歸り女房の後世を弔ひながら餘生を送つたのだつた

（終り）

十二月二十日より二十五日まで
歳末仕奉大賣出し
●平素の御愛顧に酬ゆる爲め……
思ひ切つた大特價で奉仕提供致します！
●七五三お祝洋品●
●年末年始御答用品●
●吉例歳末奉仕●
正　中野洋品店
平二〇電五三番

許允省藏大
磐城無盡
宋半分
家屋敷

忘年會
新年會
◆萬事御希望に副ふやう勉强して御奉仕致します
◆御通知下されば當方から御相談に參上仕ります
平町紺屋町
住吉屋本店
電話一五九番

森下の歳末年始
大特賣出し
期間　八年十二月廿二日ヨリ九年一月四日マデ
此際五十錢御買上毎……御土産菓子入大袋呈上……
桐羽子板　十五錢
五吋ゴムマリ網入　十八錢
百人首一組　十五錢ヨリ
フートボール六吋　十錢
（其他何品ニヨラズ二割引）
森下玩具店
平町一丁目　電話三九七番

たしまきづ返が円正お
スンマータクヒ
特選レコード優秀音器
し出
店計時堂光金　店約特

安價で効果的な天然加里肥
最も適應する作物!!
蔬菜、馬鈴薯、里芋、しやうが類
◆茄果類ではトマト、茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから
◇如何に施用しても土壤を惡變する虞は絶對にありません
一俵　參拾錢
（大量取引は特に割引致します）
製造販賣　金成國雅
平町鎌田　電話六八八
貨物自動車の御用命に應じます

夜診
胃腸病性
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）
療間

社員招聘
一、集金販賣係　五名
經驗の有無に不拘小學卒業以上身元保證入アル廿二歳以上五十歳迄
一、見習社員　一名
小學卒業ナ六歳以上の男子
但シ會社住込ミ勤務
平町田町通り
シンガー裁縫機械會社支店

師團長宮を迎へ奉り 平驛頭に感激し渦巻く

御無事炭鑛の御視察を了せられ 平町に第一夜の御休養

金枝玉葉の御身を以て地下六百尺の坑内に降り立たせられ御親しく石炭採掘の實況を御視察遊ばさるると云ふので先日來地方民を極度に感激せしめつつあつた 東久邇第二師團長宮殿下には、師走の末とも覺ぼえぬ迄に風靜まつて天一碧に澄み亘つた今二十一日午後零時五十五分平着磐越線上り列車にて、既報諸員隨行御來平、特定者に對する賜謁其他昨報御豫定の如く驛頭其他沿道堵列の多數奉迎裡にお自動車により内郷村磐城炭鑛に向はせられ御無事同社及白水阿彌陀堂の御視察を了せられ、午後三時三十五分住吉屋本店に御着、郡下御視察第一夜の御休養に入らせられた

遺族と戰傷者に慰めの御言葉

平町で拜謁の人々

廿三日正午師團長宮片倉製絲工場御成りの際拜謁を賜はる傷痍軍人及戰死者遺族名左の如し

（傷痍軍人）南町岩本重雄（五七）紺屋町比佐又藏（五二）古館治町端山正男（五二）三丁目馬目悦善（五二）長橋町大和田芳吉（五二）一丁目飯田近治（五四）七軒町荒川祐一（五四）二丁目伊關房次（五二）小名濱町小野道雄（五六）田町味岡子之松（五七）舊城跡八幡庄之助（五四）堂の前戸田德次郎（五六）

（戰死者遺族）紺屋町緒形惟親、南町齊藤般次、田中沖野仙五郎、赤井齊藤ケイ、湯本町比佐ミナ、紺

磐炭賞與四萬圓

入山も同じ五分配當

兩社共明後廿三日總會

弊炭及び入山では明後二十三日何れも株主總會を開き今期利益配當を附議するが配當率は兩社共年五分で磐炭は總額利益金八十萬圓の一割八萬圓で半額の四萬圓が本社山元各社員に均霑さ

鮫川水利組合起債

預金部より約九萬圓

鮫川水利組合總會は今廿一日から二日間平町体事務所樓上で開き着工に先だち大藏省預金部地方資金部又は會社銀行より八萬七千四百圓の起債をなす外左記諸件を協議する

組合負擔金百三十七萬四十三圓の件、繼續年期支出方法變更の件、水路敷地處分の件、鮫川堰水利改良事業國庫補助金十三萬四千九百七十八圓立替支出の件、八年度組合歳入歳出追加豫算十四萬三千三十圓の件、臨時委員七名選擧の件、積立金二千圓運用及戻入方法の件

第一兒童遠足

延期となつてゐた第一校の月次運動會は來る二十六日(火)

左の如く各遠足を行ふ

尋一—乾見ヶ岡、二—飯野ヶ川瀬山、三—同龍門寺、四—平洋横山台、五六—内郷白水阿彌陀堂、高一、二—湯本傾城トンネル。

珠算優良兒

第一校競技成績

第一校の第二十一回珠算競技會は既報の通り昨二十日午後一時から講堂に催したが五年以上各組四名の選手四十四名中成績優良の者左の如し（○印滿點）

△尋五—市毛俊德、高階文三、杉本光男、會川和三郎、富岡歳雄 △六—○安齊光男、○政井喜八郎、坂本行藏、大野泰志 小齊新平 △高一—大越元吉、大森文勝、阿部定雄、鈴木保司、水野芳正 △二—○高野雅夫、○瀬戸利雄、松崎康利、細川圭造、大槻經之助

俵米品評會

廿三日賞品授與式

平町外六ヶ村聯合俵米品評會は既報の如く昨二十日より平農業倉庫に開催出陳五百五十四點に上り午後より審査の結果入賞者左の如く決定、明二十二日午後二時より團体事務所で授與式を行ふと

一等—渡邊菅男(夏井)太田三平(飯野)大山忠平(平)

(平)眞野信用組合(高久)大平彌惣次(内郷)

二等—矢吹幸輔(夏井)以下十六點 三等—箱崎晃(鹿島)外三十一點 四等—佐原良近(鹿島)外八十七點

贈答用の煙草賣れる

敷島とミノリ良好

年末首の贈答季に際し專賣局平出張所では既報の如く管内各所に『美しいセロフアン包裝函入れに』なるボスター千餘枚を配布して宣傳に努めて居るが今月に入

第二校の郷土祭

往時を偲ぶ催しの數々

第二校の郷土祭は都合に依り再び延期となつて來る二十七日午後行はれるので今二十一日午後二時半から立案委員會を同校應接室で開き當日の打合せをなしたが

尋一『私の家』（郷土祭のプロローグで姉妹四人の對話）尋二『龍王樣』（好間金成家に傳る蛇ヶ淵の傳說を磐城古代記による劇）尋三『町内見物』（平町町内の名所古蹟紹介）尋四『大越中佐』（植竹源太郎氏原作を脚色したもの）尋五『海の幸山の幸』（現代と平安朝に跨り勿來關を背景とする回顧劇）尋六『御老安藤對馬守』（偉人信正侯の端片）

偉人を仰慕

津田校長は語る

右催しに就いて津田校長は郷土研究の材料を郷土室に纏め郷土の事實を出發れると

高一『德尼』（尼子橋の由來を實に現す）高二『義人勝爲』（澤村公と水森氏）

牙籌の雄口舌の豪

昨日の平商辯論大會成績

平商校の辯論部大會は既報の如く昨二十日午前十一時から同校講堂で音樂部合同

1『純正なる若人の意氣』男二人に嚴重說論。仲間町の外田トシ(四)の私生兒認知は結局責任者不明浴場公開問題に般炭側硬化 (二十六日)ルンペン強盜赤井の萩田宙之助(三八)に懲役十二年。原町のクレー射撃大會に杉山氏また一等。平第一校長は篠田廉氏と決定(二十七日)磐中年大越軍神の墓掃除。夜の縣運を大風呂敷の怪漢新潟生れの青木嘉一郎(四)(二十八日)双葉郡野村の小作紛糾役場の調停會で解決。製糸場の少年工として平から數名出發。詐欺只飲みで大工町の今井一(三)送檢新川町長材木店の置場から發火三棟七戸を全燒。(二十九日)護國聯合發會式に青沼町長出福。大國魂神社の老杉再た發火辛じて消し止む(三十日)青年訓練後援會狩り出し三百名。夜八時からの條件で磐炭浴場公開。江名の漁夫田部清志(三〇)作業中海中に轉落不明。人事不

昭和八年の回顧

（九月の巻續き）

傷害致死被審終結（二十三日）水高主催第五回近縣中等校水上競技會プール開き。今明日水鐵管内對抗競技會。驛氣を吐く（二十四日）近縣水上競技會磐中の澁谷君大會新記錄を作る。在軍銃劍術大會盛況 （二十五日）大浦産業青年會發會式。大浦の米穀共販。家事を顧ぬ

（十九日）膠桶屋實は前科十四犯壁破りの名人泥を吐く。赤井嶽藥師祭典（二十日）白水の坑夫吉田義人(四)千鳥足で冥土行き。磐炭の無料浴場に入浴を拒まれ村民狼狽して有志會合（二十一日）『玉川』のお目得詐欺浪江署に捕はる南會津の佐藤戸右工門とその妾。山田

小川江筋臨時總會

當面の問題數項を附議

小川江筋組合臨時總會は昨廿日午前十時より平團体事務所樓上に開き左記議案を附議した

臨時職員設置變更の件、組合改良工事施行要項變更の件、臨時職員給料額旅費額並支給規程改正の件共有金(三千圓)運用及方法變更の件、昭和八年度組合歳入歳出追加更生豫算の件、特別會計設定の件、特別會計八年度組合工事請負費歳入歳出豫算

二週間徹宵で排水作業完成

竣工を急ぐ豐間築港

豐間漁港修築工事は去る九月より港内三千坪の深水を二米に深める本格的工事として工費二萬六千圓を投じ港内の兩入口を閉鎖し十吋鐵管を敷設動力により二週間程徹夜で排水作業中であつたが此程愈々同作業が完成し港口が干上つたので目下入夫二百五十餘名が出動陸揚り作業中で一方三十餘名で防波堤及船あげ場の工事を急いで居るが明年三月豐間漁港設備が完成されると

佐藤泉一に求刑七年

複雜な不正文書事件

飯野村大字上荒川字堀の内九〇佐藤泉一(三七)に係る公私文書僞造行使公正證書原本不實記載行使詐欺事件の公判は昨二十日午後二時から平支部で中島裁判長係り關口、香西兩判事陪席、三堀檢事關與開廷されたが檢事は懲役七年を求刑、門傳辯護士の情狀論あり判決言渡しは來る二十七日開かれる

ルンペン

騙り歩く

北海道石狩國生れ當時住所不定無職吉岡政雄(三三)は十九日午後六時頃中町紺屋町扇屋旅館より宿料三圓餘を踏倒して逃走した外内郷村綴伏見り方で主人の友人である根本岩吉に頼まれたと稱してオーバー黒革靴(價格三十圓)を詐取し廿日平署に檢擧された

。。。